

地域の皆様

柏崎市教育委員会

## 学校統合説明会の概要報告（お知らせ）

日頃、市の教育行政にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます

柏崎市教育委員会では、急速な子どもの減少を踏まえ、令和3(2021)年12月に「柏崎の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境を提供する」ため、「柏崎市立小・中学校学区再編方針」を策定しました。今後、この方針に沿って、学校の統廃合を進めることで環境整備を図りたいと考えております。

この度、令和8(2026)年度の統合対象となっている「中通小と日吉小」、「剣野小と鯨波小、米山小」の地域の皆様に説明会を開催させていただき、ご意見やご質問を頂戴しましたのでご紹介させていただきます。

市といたしましては、子ども達の健やかな成長を最優先に、教育環境の再構築を推進してまいりたいと考えておりますので、地域の皆様におかれましても、一緒にご検討くださいますようお願いいたします。

## 記

## 1 説明会の概要

| 対象地域 | 期日       | 参加人数 |
|------|----------|------|
| 日吉小  | 3月7日(火)  | 14名  |
| 中通小  | 2月10日(金) | 25名  |

| 対象地域 | 期日       | 参加人数 |
|------|----------|------|
| 剣野小  | 3月2日(木)  | 9名   |
| 鯨波小  | 2月27日(月) | 30名  |
|      | 3月10日(金) | 10名  |
| 米山小  | 2月28日(火) | 23名  |

※鯨波小下段は、上米山コミセンで実施

## 2 寄せられたご意見等 裏面をご覧ください。

## 3 その他

## (1) 今後見込まれる児童数の推移

(令和5年1月5日現在)

|     | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日吉小 | 144人  | 132人  | 135人  | 129人  | 117人  | 112人  |
| 中通小 | 42人   | 39人   | 31人   | 33人   | 35人   | 32人   |
| 剣野小 | 345人  | 338人  | 329人  | 330人  | 307人  | 271人  |
| 鯨波小 | 30人   | 31人   | 29人   | 31人   | 33人   | 30人   |
| 米山小 | 24人   | 20人   | 16人   | 12人   | 11人   | 10人   |

※学区外通学は含みません。

## (2) 統合後の校舎や校名等

- ・校舎は、日吉小及び剣野小を使用します。
- ・校名や校歌、校章等は統合が決定した後、統合準備委員会を設置し、協議・決定します。

お問い合わせ先  
柏崎市教育委員会教育総務課  
電話 21-2360

# 学校統合説明会で寄せられたご意見・ご質問（抜粋）

＜ Q：参加者からのご意見やご質問 A：市教育委員会の回答 ＞

**【共通のご意見】** □賛成：多くの友達の中で、たくさんの経験をさせたい  
■反対：学校が無くなると、地域が衰退する

（日吉小校区）

Q 統合が決まった場合、両校の児童がコミュニケーションを深める機会はあるか。

A 学校全体や対象学年の児童が、学校行事などを通じて交流する機会を計画する。

Q 新聞に日吉小も人数が少なくなるので槇原小との統合も考えた方がいいという意見が掲載されていたが、その可能性はあるか。

A 今現在は、考えていない。

（中通小校区）

Q 地域を教材にした学習活動の機会が失われていくことが危惧される。

A 過去に統合した学校では、地域学習を貴重なカリキュラムとして教育課程に組み込んで計画的に実施している。地域の良さを継続して学べるように取り組んでいく。

Q 方針の最終的な決定は、いつか。

A 学区等審議会に今年の12月末までに答申をお願いしている。市及び教育委員会では、答申を受け、年明けに最終決定する。

（剣野小校区）

Q 児童は減っているが、教員も同様に減っているのか。

A 教員数には基準がある。学級が増えると1学級に1人教員が付く。プラスαで教員が増える場合もある。

Q 統合に向け、PTAとして事前に取り組むべき活動はあるか。

A PTAが交流できる行事等を、ぜひお願いしたい。また、統合準備委員会への参加についてもお願いしたい。

（鯨波小校区）

Q 子どもの精神的なサポートはどうか。

A 統合決定後、交流学习を計画的に行い、コミュニケーションの方法、集団作りの指導を適切に行う。統合一年前と統合年に教員を一人多く配置し、複式解消に向けた学習面のサポートや心のケアを行う。

Q 市教委が考える適正配置では、中心部に学校が集中し、郊外の学校がなくなる。子どもが郊外へ通学するという考えはないのか。適正規模の中に地域を踏まえた適正規模を考えるべきである。

A 望ましい環境を提供するためには、一定数の人数確保が必要である。その上で、学校の配置は現在の校舎規模や状況、クラス数等により統合先を選択した。

Q 子どもが3年生で、複式学級である。今年は4年生の授業を受けており、3年生の内容が丸ごと抜けている。授業の補完はされるか。

A 統合が決まると加配教員が配置され、複式学級解消の授業を行う。統合の年に、未履修がないよう1年かけて調整する。

（米山小校区）

Q 子どもの将来を考えると集団活動が出来る学校に通わせたいのが本音である。しかし、学校が無くなるのは寂しいし、子ども達だけの問題ではない。

A 賛成意見もあれば、反対意見もある。説明会は、そのような意見を聞かせてもらう場である。

Q スクールバスの運行計画では、中学生と相乗りだが、小学校低学年の負担への配慮を望む。

A 案であり、統合が決定したら統合準備委員会にて検討する。子どもの負担には配慮する。